

炭電ふく代議員 公明党

オレンジプランを踏まえた
本市の認知症対策の取り組みは

問

- (1) 本市の現在の認知症高齢者の実態と今後の推移について尋ねる。
- (2) 国の策定した新オレンジプランの内容を踏まえ、本市は認知症対策をどのように取り組んでいくのか。
- (3) 新オレンジプランにある認知症初期集中支援チームとはどういうものか。
- (4) 楽しんで認知症予防ができるコグニサイズ（簡単な計算やしりとりなどの課題を運動と一緒に行うプログラム）などを市民に向けて展開していく必要があると考えるがどうか。
- (5) 簡単に認知症のチェックができるサイトの作成や市民への啓発などを進めていただきたい。市ホームページに認知症簡易チェックシステムをぜひとも導入すべきと考えるがどうか。

答

- (6) 認知症サポーターは養成講座受講後、見守りネットワークに登録をしてもらい、徘徊で行方不明者が出た場合に家族が希望すれば認知症サポーターにもメール配信により協力してもらえるようにすべきでは。
- (7) 徘徊高齢者家族の支援サービスとして、GPS付き見守りキーホルダーのサービスを導入してはどうか。
- (8) 各事業所にも認知症サポーター養成講座を受けてもらうよう依頼し、養成講座のやり方にも工夫と改善が必要と考えるが、どうか。

重要課題と認識しており、さらに充実させていきたい

答 介護高齢課長

- (1) 本市の要介護認定を受けている方1千658人の訪問調査票をもとに集計し、1千181人が何らかの認知症

と考えられる。

今後の推移について、29年度の認知症高齢者数は1千358人と推計される。

- (2) 今年度から、タブレットを使った脳トレ教室やふれあいサロン運営事業を開始した。従来から行っている高齢者への配食サービス、緊急通報システムも支援の一環であると考えている。
- (3) 医療・介護の専門職が家族の相談により、認知症が疑われる人や認知症の人及びその家族を訪問して、アセスメント（評価）や家族支援など初期の支援を包括的・集中的に行い、自立生活のサポートを行うチームのことをいう。
- (4) コグニサイズについて、どこかで取り入れることができなにか検討していく。
- (5) 年明け早々には市ホームページに掲載したい。
- (6) サポーター養成講座受講者には市の安全・防災メーリングの登録をお願いしていきたい。
- (7) 同報無線による臨時放

送や市の安全メール、介護保険サービス事業所への一斉メールによる現状の方法をとりながら今後の課題としたい。

問

- (8) 県より、小中学生及び高校生を対象とした認知症サポーター養成講座の実施についての依頼があった。まずは、市内中学生を対象とした開催を教育委員会と調整したい。

市独自の子育て応援アプリの推進を

問

- (1) 子育て世代の多くが持つスマートフォンで、気軽に情報を取得できることで、子育て世代の不安や負担の軽減を図ることができる。
- 市独自のアプリを開発し、子育て支援事業に生かしていただきたいが、どうか。
- (2) その内容と開始時期は。
 - (3) 子育て世代のネットワークを生かすことで、より多くの方に市の子育てポータルサイトを知り、利用してもらえるのでは。

弥富市子育てポータルサイトの構築に取り組んでいる

答 児童課長

- (1) 弥富市子育てポータルサイトの構築に取り組んでいる。このポータルサイトは、スマートフォンで閲覧でき、本市の子育て情報を取得できる身近な窓口になるものと考えている。
 - (2) 妊娠期から就学前の子育て家庭を対象に、市の子育て支援情報や乳幼児の健康診断、予防接種のお知らせなどの提供や子ども・子育て支援新制度の取り組み事業について情報を一元化し、集約した便利なサイトで、28年4月1日の公開に向けて取り組んでいる。
 - (3) 弥富市子育てポータルサイトへは、広報誌、ホームページのQRコードを読み取ってアクセスすることができるようになる。
- 子育て支援センターなどの集いのときに、アクセスの仕方や活用方法の実践を行い、周知に努めていく。